

## 4．鋼橋の部材が有する性能および特徴抽出WGの活動成果

### 4．1 活動の目的

鋼橋の性能設計についてまとめていくうえで、具体的な鋼橋の性能が見えておらず、進むべき方向が未だ不明瞭である。そこで、鋼橋の各部材に着目し、その役割や特徴を洗い出すことにより性能が浮き出てくるのではないかと考えた。

そこで本WGでは、土木を専攻している学生や、鋼橋に携わる企業の新入社員などを対象とし、できるだけ分かりやすく鋼橋の性能を示す「鋼橋のカタログ」を作成することにより、幅広い層に鋼橋を知っていただくとともに、より本質的な鋼橋の性能を見出すことを目的とした。

### 4．2 WGメンバー

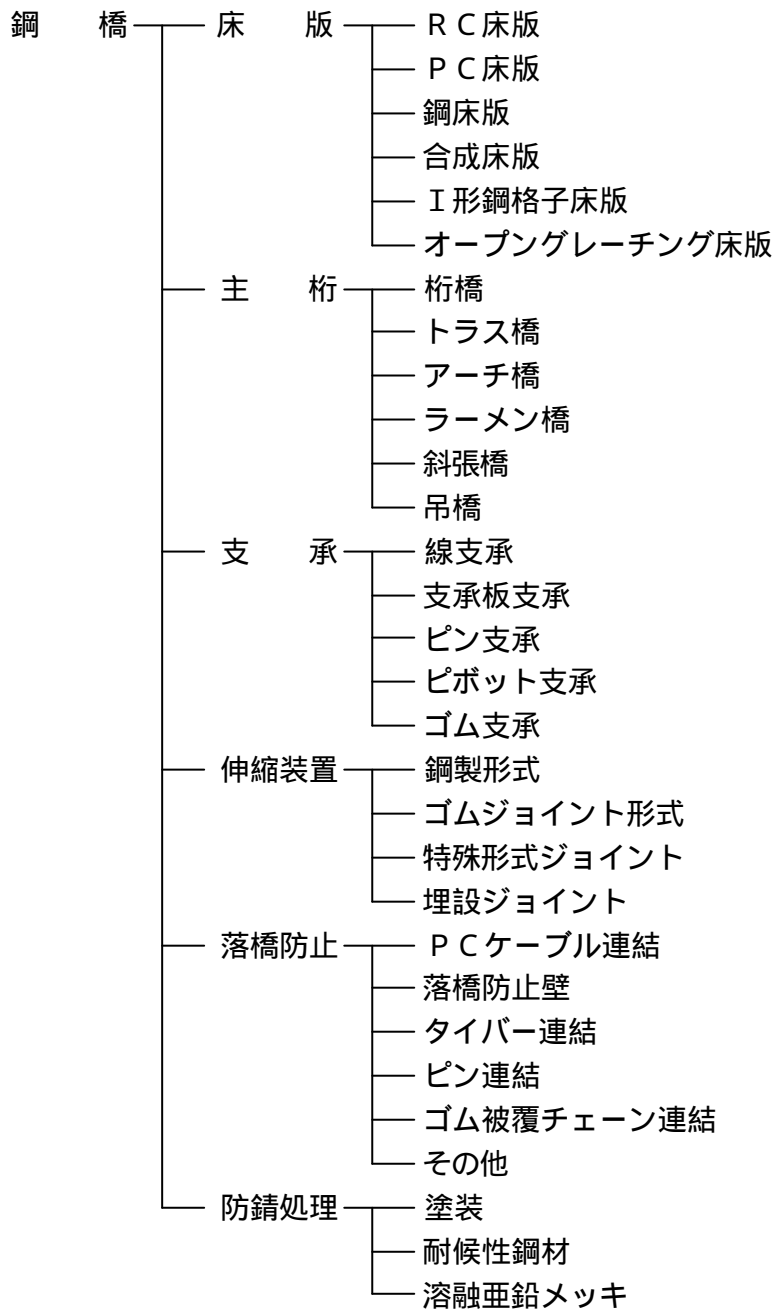
長島 哲	トピー工業
中野 乙	巴コーポレーション
道田和樹	日本橋梁
佐藤和則	日本製鋼所
谷 栄	ハルテック
岩崎義信	川田テクノシステム
山崎敏宏	栗本鐵工所

### 4．3 活動内容

当初、本WGでは写真や数値などにより性能が分かりやすく説明されている製品カタログに着目し、「鋼橋のカタログ」を作成しようと考えていた。しかし、本WGの活動だけでは性能の数値化が困難であることから、鋼橋の各部材に着目し、その役割や特徴を洗い出すこととした。また、部材の形式毎の長所・短所を示し、その性能を浮き出させるとともに、形式選定にも利用できる資料とした。なお、できるだけ多くの写真や図表等のデータを加え、誰にでも分かりやすく気軽に利用できる資料となるよう心がけた。

資料の構成内容は以下のとおりである。

## 【構成内容】



### 4.4 まとめと今後の課題

本成果品は、鋼橋に対する専門的な知識を有していなくても、鋼橋の性能が見えてくることを目指しており、「性能設計」という設計手法そのものからはかけ離れたものとなった。

しかし、鋼橋やそれを構成する部材の性能が見えてこない限り、性能設計に入っていくことはできないため、本成果品で示した鋼橋の根本的な性能が、性能設計を確立させるためのひとつの手がかりになるのではないかと期待している。

次の段階として、鋼橋に要求される性能および鋼橋が所有している性能を検証できるように、性能というものを具体化していかなければならない。すなわち、性能を数値など客観的に比較できるものに置き換えるための検討が必要であると考えられる。